

5 ヒアリング調査

(1) 調査の概要

ユニバーサルデザインのまちづくりの推進にあたり、課題や問題等について、障害者団体、高齢者団体等の方々にヒアリングシート等により、ヒアリング調査を実施しました。

(2) 結果概要

①現状における課題・問題

事項	課題・問題点
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、認知症、障害者、引きこもりの方がおられる家族の社会的孤立。 ・地域でのサロン活動のための施設にエレベーターがないため、高齢者や障害者が参加できない等、建物のハード整備が追いついていないと感じる。 ・趣味、習い事の場合において、手話通訳士の配置など、他の受講者と同様に受けられる環境をつくってほしい。 ・同じ市内でも地域差があり、支援体制にも差がある。 ・障害があるという理由で自治会役員などの当番を免除されることがある。自分もできることであれば、対等に扱ってほしい。
施設・道路	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーチング、縦断勾配、平坦な道路(波うち歩道の解消)等の道路の構造、音響対応していない信号等による移動がしにくい環境。 ・歩車道間の段差については車いすでの移動に支障はないが、視覚障害者でも認識できるよう配慮が必要。 ・施設における介助等を行う人員の確保が必要。 ・多目的トイレでは、本来の対象者が利用できないことが多い。対象を細分化(機能分散)したトイレの設置や適正な利用に対する周知・啓発が必要。
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・寺院・神社の景観を残したままバリアフリー化された参道の整備。 ・国際文化観光都市として、奈良の魅力を発信し、だれもがその魅力に触れることができる体制づくり。 ・身体障害者用の駐車場が不足している。
バス・電車・タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンステップバスであっても乗車するまでに段差があるため、停留所での段差が生じない停車に対する意識改善やスロープ等の対応が必要。 ・事業者側の配慮がある一方で、障害者の方の中にはいまだ配慮や援助してもらえないと感じ、外出をためらう方もいる。 ・移動支援を必要とする人の負担軽減となる支援の充実。 ・車両切り離し等の際など、車内放送では気づかない方への対策。 ・電車内における電光掲示板がわかりづらい。

災害時	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所施設におけるトイレ、風呂等がバリアフリー化されていないため、自宅に残る意思を示す方も多い状況にある。 ・自宅から避難所までの経路のバリアフリー化や避難コースの事前確認。 ・ホテルや旅館に宿泊する際に、事前に避難経路の説明がないことや、火災等が発生した場合の非常ベルが聞こえないことによる危険性。
啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプマークなど、認知不足があり、さらなる普及啓発が必要。 ・障害特性が理解できる啓発活動の促進(当事者が市内の小中学校などで障害者の生活や人権について伝える機会の確保など)。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ではなく市民全体で推進していく体制づくりが必要。 ・助けられる側もできる範囲は自分で行うなど、相互の共存が大切。 ・高齢者、障害者と区分した対策を考えるのではなく、子どもから高齢者、障害者も含めたユニバーサルデザインの一体的対策が必要。 ・施設や道路が整備された後に意見を求められるため、事前に当事者の意見を聞いた上で事業に反映させてほしい。本当に必要な個所に適切な対策が実施できるよう、当事者、事業者、行政の連携が重要。 ・事業者がさまざまな配慮を行いやすくするための支援が必要。

②奈良市の目指す姿

目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが出かけることができるバリアフリー化に配慮したまち ・奈良の魅力である観光を活かしつつ、だれもがストレスなく楽しむことができるように道路等が整備されたまち ・高齢者や障害者、引きこもりの方などがつながり、ネットワークで見守り合えるまち ・健常者、障害者が共生する安全に安心していつまでも暮らせるまち ・災害発生に備えて、すべての方に配慮されたまち ・だれもが娯楽や楽しみを共有できる集まりの場のあるまち ・優しい気持ちで困りごとにも寄り添えるまち ・人に優しく、思いやりの心をもって声をかけ合えるまち ・子どもから高齢者まで思いやりの心の教育を推進するまち ・マンパワーを活用した支え合いにより、どんな状況にも落ち着いて行動ができる、適切な対応ができるまち ・高齢者福祉や障害者福祉、児童福祉などが一体となり、福祉につなげることができるまち ・ユニバーサルデザインの考え方により、案内表示が見やすく整備され、だれもが安心して移動できるまち ・対象者に応じ機能分散したトイレが整備され、だれもが安心して出かけられるまち